

めぐみイエス・キリスト教会

2025年7月20日(日)第三主日礼拝

午前10時より

週報「通算第767号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌137「聖なる聖なる」	p. 193
【交読文】	No.56 ローマ人への手紙12章	p. 924
【賛美Ⅱ】	新聖歌503「愛の御神よ」	p. 805
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【前回説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲「神の都へ」	
【聖書朗読】	ルカの福音書9章51節～56節 (p. 133下段)	
【礼拝説教】	《サマリアの別の村へ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所

9:51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行こうとして御顔をまっすぐ向けられ、

9:52 ご自分の前に使いを出された。彼らは行って、サマリア人の町にはいり、イエスのために準備した。

9:53 しかし、イエスは御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリア人はイエスを受け入れなかった。

9:54 弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私たちが天から火を呼び下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」

9:55 しかし、イエスは振り向いて、彼らを戒められた。

9:56 そして一行は別の村に行った。

●ポイント1.ヨハネによる、もう一つのサマリアの町の出来事とは？

※ヨハネの福音書4章28節～30節・39節～43節(新約p.183～p.184)

- 4:28 彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。
4:29 「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか。」
4:30 そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。
4:39 さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。
4:40 それで、サマリア人たちはイエスの所に来て、自分たちの所に滞在してほしいと願った。そこでイエスは、二日間そこに滞在された。
4:41 そして、さらに多くの人々が、イエスの言葉によって信じた。
4:42 彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」
4:43 さて、二日後に、イエスはそこを去ってガリラヤに行かれた。

●ポイント2.「主よ。私たちが天から火を呼び下して、彼らを」とは？

※第Ⅱ列王記1章7節～10節「アハズヤ王とエリヤ」 (旧約p.648)

- 1:7 アハズヤは彼らに尋ねた。「おまえたちに会いに上って来て、そんなことを告げたのはどんな男か。」
1:8 彼らが「毛衣を着て、腰に革の帯を締めた人でした」と答えると、アハズヤは「それはティシュベ人エリヤだ」と言った。
1:9 そこでアハズヤは、五十人隊の長を、その部下五十人とともにエリヤの所に遣わした。隊長がエリヤの所に上って行くと、そのとき、エリヤは山の頂に座っていた。隊長はエリヤに言った。「神の人よ、王のお告げです。下りて来てください。」
1:10 エリヤはその五十人隊の長に答えて言った。「私が神の人であるなら、天から火が下って来て、あなたとあなたの部下五十人を焼き尽くすだろう。」すると、天から火が下って来て、彼とその部下五十人を焼き尽くした。

◎先週のメッセージ【信仰と寛容とは？】

《この場面は、カペナウムのシモン・ペテロの家に戻って来た時です。よって、他の人による「悪霊追い出し」は、カペナウムで行なわれたと思われる。まず、この事実を目撃し伝えたのは、主が「愛する弟子」と言われたヨハネであって、また、この働きを止めようとしたのもヨハネです。つまり、この出来事はヨハネの為であったことが分かります。

ヨハネは、主イエスを直に目撃した最後の生き残りとして、二世紀初頭までエペソ教会を導き、長寿を全うしたと伝えられています。

そして、その頃は、様々な異端が出始めた時でもあったのです。よって、本物と偽物を見分ける必要が急務であったことが分かります。

ところで、一体彼らはどのような人々なののでしょうか。もし主イエスの弟子ならば、彼らは主と行動を共にするはずですが、また、ヨハネは彼らに、主イエス一行と行動を共にするように促したことが分かります。

さて、彼らは「主イエスの御名」によって悪霊どもを追い出しました。なぜ、主の弟子ではない者たちによって、主の御名によって、命じたならば、悪霊が出て行くのでしょうか。私はこう解釈しています。

彼らは、主イエス一行に付いては行きませんでした。実は主イエスを心から信じていた者ではないのでしょうか。それでは、なぜ付いて行こうとはしなかったのでしょうか。それは、すでに十二使徒以外にも多くの弟子たちが、主と行動を共にしていたからではないのでしょうか。

さて、この出来事は、私たちに何を教えようとしているのでしょうか。主イエスは、やがて、教会が分裂することを知っておられたのです。それゆえ、十二弟子たちに、新しい戒めを与えられたのです。「私はあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」と。

つまり、教会同士が裁きあったり、断絶することは、主の御霊を悲しませることになり、悪魔と悪霊どもを喜ばせるだけなのです。》

◎お知らせ

※次回、第4主日礼拝は、2025年7月27日午前10時より行ないます。